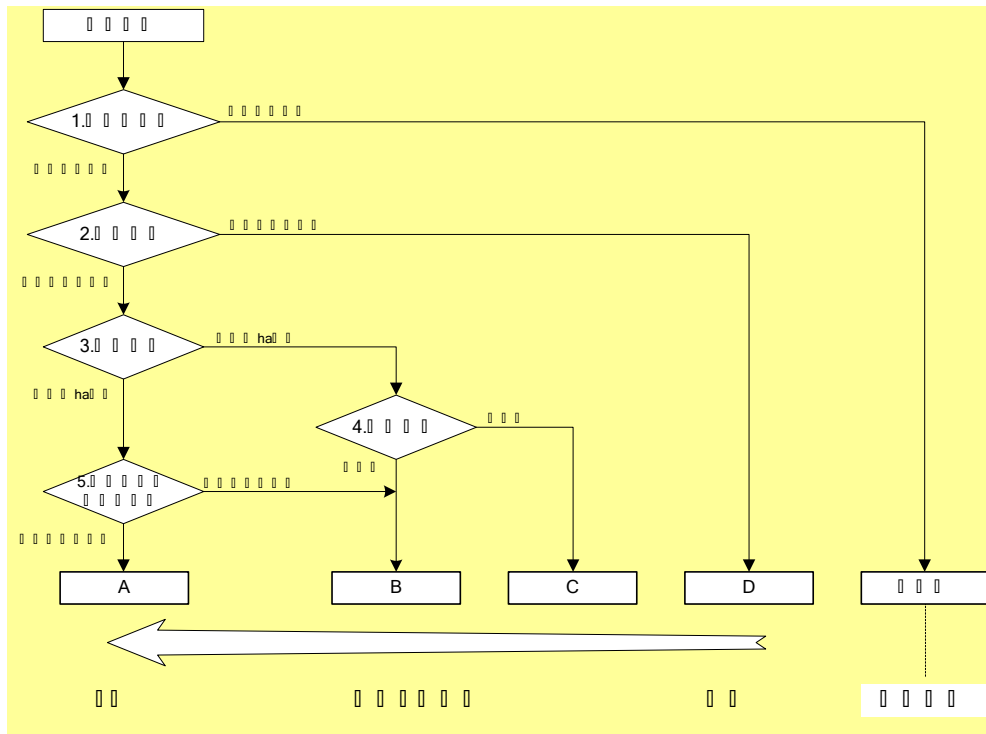


- ②対象河川の抽出：優先度評価の対象となる 河川を事前に選定 することによって、作業の効率化を図ります。ここでは既存資料の他にも都市河川や山地河川等の地形条件等も含めて選定を行います。
- ③治水安全度の評価：河川毎に計画規模は異なりますが、同一の降雨を与えることによって 流域の氾濫ポテンシャルを把握 します。ここでは氾濫ポテンシャルをより明確にするために、管内の最も大きな計画規模よりも1ランク大きい規模を設定します。
- ④氾濫シミュレーションの実施：氾濫シミュレーションは河川毎に行います。地形条件により他流域に浸水する場合は 氾濫原の限界を隣接する河川まで とし、浸水面積や被害額等を算出します。
- ⑤優先度の評価観点の整理：優先度の評価観点は収集資料や各種計算結果等から ランク分けしやすいものを抽出します。ここでは 治水安全度、氾濫ポテンシャル、河道形態、災害実績 とします。
- ⑥事業の優先度評価：評価方法はフローチャート を採用します。事業の緊急度に応じ、数個のグループに分類し、今後の段階整備を図るための基礎資料として位置付けとします。



フローチャートによる評価方法例

事業の流れ[当社の実施範囲]

当社の範囲・・・治水面からの評価

河川の現状の把握

- ・ 改修履歴、災害実績、治水安全度、氾濫ポテンシャル

優先度の設定(フローチャート)

- ・ 地域特性を反映した評価方法
- ・ 地域特性や自治体の現状を踏まえた優先度の分類

その後は・・・

- 評価グループ内で住民ニーズや副次的効果等を考慮した優先度の決定

玉野総合コンサルタント株式会社

お問い合わせ先： 事業企画部 (TEL. 052-979-3960 / FAX. 052-979-3970)